

展開のきっかけ

すごい風!

学校法人水谷学園 北陵幼稚園 (島根県出雲市)

[5歳児]

<園の実態・環境> 「子どもたちが興味をもって環境にかかわり、主体的に遊びや生活に取り組む」ことを大切にするため、地域や園周辺の環境を積極的に取り入れる工夫をしている。園の特徴的な環境でもある「園庭に吹く強風」を遊びに取り入れる子どもたちの姿が見られる。

	子どもの姿	援助(♡) 読み取り(※)
きっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強い風に咄嗟に気付き、園庭に出かけて行く。</li> <li>・「すごい風!飛ばされる〜」「助けて〜こんな風初めてだ」「目が痛い!目に砂が入った!」と強風を感じた子どもたちはブルーシートに気付き、倉庫に取りに行く。「ワー重たい!」「かつげない!」「引っ張って〜」と大はしゃぎをする。B児「風って重たいね」「風っていつも重たいの?」「……」B児「今日は特別重たいわ」A児「どこで生まれたのかな、この風」などと言いながら、ブルーシートを広げて風を楽しむ。</li> <li>・翌日も、「今日も風が生まれたよ!昨日よりもっと大きい風だわ・・・」「えへへ、また風が呼んでるよ!」と言い、ブルーシートを出して遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※強風という環境に出会った子どもたちは、それだけで好奇心や興味をもち遊びを見いだしていく。</li> <li>※ブルーシートを持ち出して「風の強さを強烈に感じよう」と行動する子どもたちの好奇心の旺盛さに感動する。</li> </ul> 
想像1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C児はその様子を見ている。「先生 ピニール袋をちょうだい・・・僕はこいのぼりを作るから・・・」</li> <li>・C児は保育者からピニール袋を受け取る。D児とE児と一緒に部屋に入る。</li> <li>・「これを長くつなげることをするよ!長くないとこいのぼりにならんよ」言うC児に、D児は「どうやって長くつなげる?」と言い、3人で困る。</li> <li>・ピニール袋の底を切り取るとよいことをC児が言葉にすることで、3人のイメージや作業が共通になり、風が入るようにピニール袋をつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡保育者は黒いピニール袋を見つけ「これしかないけどいいかな?」とC児に渡す。</li> <li>※D児とE児は5歳で入園して間もない。友達も環境も変わり、不安を見せることがある2人にとってはC児が最大の環境である。</li> <li>♡イメージを共通にして作業をすることが難しい様子なので、子ども同士の会話を大事に引き出しながら援助する。</li> </ul> 
想像2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげたピニール袋をこいのぼりのようにし、「速く、風が行っちゃう」と言い、園庭のポールにつける。</li> <li>・こいのぼりの様子を寝転がってしばらくじっと見る。</li> <li>・C児「先生下ろして!ヤマタノオロチにするけん・・・」と言う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>※下から見上げると見え方が違うことに気づき、面白さを感じる。</li> <li>♡保育者も一緒に寝て見る。</li> <li>※ピニール袋を長く繋げたことで、普段見るこいのぼりの動きと違うことを発見した。</li> </ul> 
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C児は「オロチには三角の模様があること」や「目は怖くて大きいこと」などを、オロチを知らないD児やE児にやりとりをしながら伝える。</li> <li>・D児やE児も納得し、色画用紙に大きな目を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※この後、オロチ作りや神楽遊びが、クラスに広がる。</li> </ul> 

ポイント

大きなシートの動きや全身で風の勢いを感じたことをきっかけに、空で勢いよく動くこいのぼりを想像して「大きなピニール袋をつなぐ」という発想が生まれています。さらに、できたこいのぼりの予想以上の動きやイメージした動きとの違いから「ヤマタノオロチ」を想像したことで、友達とイメージを共有して作る遊びが展開しています。風を受けて動くものへの想像が豊かになることで、体験の質が向上しています。